

## マスネ / 組曲「絵のような風景」(管弦楽組曲第4番)

ジュール・マスネが生まれたのは、日本では江戸時代後期、物価高騰で天保の改革が行われたが、財政・行政面で問題点が多く幕府の権威が低下してきた時代です。

オペラを中心に生涯人気のあったフランスの作曲家で、歌劇『タイス』の瞑想曲は永遠にヴァイオリンの名曲となっています。

この組曲「絵のような風景」はマスネらしい軽妙さと甘いメロディーとエスプリに溢れている名曲です。タイトル通り色彩感あふれるサウンドですので、今どの楽器が演奏しているかを探しながらお聞きください。

**1. 行進曲** マスネは普仏戦争に兵士として従軍しています。パリ陥落、アルザスロレーヌ割譲などフランスと新生ドイツの間に遺恨を残した戦争です。この曲はチャーミングです。

**2. 舞踏曲** チェロのメロディにはところどころファゴットが重なっています。注目してみてください。

**3. お告げの鐘** ホルンがとチェロのピチカートが鐘の音を表現している素朴な曲です。作曲されたのは『晩鐘』で有名なミレーが亡くなる2年前です。



**4. ジプシーの祭** ファンファーレが華やかな曲です。ジプシーとは〈流浪の民〉として知られたヨーロッパで生活している移動型民族で、ドイツ語でツィゴイネルなどと呼ばれています。ジプシーという語に軽蔑の意味合いがあるため、今日では自身が呼ぶロマが呼称として用いられていますが、ここでは原題にならって表記しています。その音楽や舞踊は祭礼などでは歓迎される面もありましたが、地域住民から差別と迫害を受け、とくにナチスは1933年から絶滅政策をとり、約50万人が虐殺された歴史があります。

## ドビュッシー / クラリネットと管弦楽のための狂詩曲第1番

クロード・アシル・ドビュッシーもフランスの作曲家です。18歳からチャイコフスキーのパトロンとして有名なフォン・メック夫人のピアニストとして一家のヨーロッパ旅行に同行して見聞を広め、それから本格的に作曲家を志しました。その和声は独創的で、マラルメやヴェルレーヌら内面的な観念や情緒を暗示する象徴主義文学との出会いが多く影響していると言われ



ています。自身「言葉が途絶えたところから音楽は始まる」と書いています。

この第1狂詩曲は、第1次大戦4年前の1910年にパリ音楽院の試験課題として書かれ、翌年オーケストレーションされています。管弦楽版の初演はドビュッシーの死後の1919年でした。兄弟曲に初見演奏の課題曲として作曲されたクラリネットとピアノのための《小品》があります。

曲はテンポや調性の変化が多い自由な形式です。

## ウェーバー / クラリネットと管弦楽のための小協奏曲

カール・マリア・フォン・ウェーバーはミュージカルや演劇などを巡業して回る旅芸人一座の子供に生まれました。当時の日本は田沼意次のいた江戸中期です。父親は兄の娘がモーツァルトの妻となったことに影響され、自分の子供も天才にしようと音楽教育を施し、結果12歳から本格的な音楽活動を始めようになりました。ウェーバーの音楽は形式より



感情を優先する姿勢を示していて、それはドイツロマン主義音楽の創始者とも言われています。その最大の功績はドイツ語の台本を用いた、ドイツならではの歌劇『魔弾の射手』で、ワーグナーに続くドイツオペラの礎を築くこととなります。

身体的ハンディキャップを持って生まれ、硝酸を飲み声帯を傷め小声でしか話すことができず、亡くなる10年間は結核を患うなど天才ゆえの多忙が原因か、39歳で亡くなっています。

曲は3つの部分からできていて、**第1部**はアダージョ・マ・ノン・トロポ 3/4拍子。**第2部**は主題と4つの変奏アンダンテ 2/2拍子。**第3部**は Rondino 風のアレグロ 6/8拍子です。

このクラリネット小協奏曲は、わずか2週間で作曲され、完成の3日後にバイエルン国王の前で初演されます。これに感動した王は新たに2曲の協奏曲の作曲をウェーバーに依頼しました。ウェーバーは同年に2曲を作曲しています。

## ハチャトゥリアン / バレエ音楽「ガイーン」組曲より

アラム・イリイチ・ハチャトゥリアンは旧ソ連時代のアルメニア人作曲家です。製本屋の息子として生まれ、一時は製本屋を継ぎました。本格的に音楽の勉強を始めたのは18歳になってからで、それまでは楽譜も読めなかったそうです。ハチャトゥリアンはモスクワ音楽院在籍中から才能を開花させ、順調に音楽家と

してのキャリアを重ねていきます。  
ところが1948年になると、ソビエト連邦共産党中央委員会が文化芸術へのイデオロギー統制を始め、ハチャトゥリアン、ショスタコーヴィチを含むソ連の多くの作曲家たちが批判の対象となりました（ジダーノフ批判）。そもその発端は、あるオペラのカフカス地方を舞台とした戦争描写にスターリンが激怒したことにあったとされます。



遡ること6年、『ガイーヌ』の初演された1942年にもその傾向が見られました。当初は子供のいるアルメニア人女性ガイーヌの愛国心と祖国を裏切った夫への葛藤がテーマのバレエでしたが、主人公は若い女性に設定が書き換えられ、政治色を排除し恋愛要素が強調されました。フィナーレはソ連集団農業コルホー

ズの人々の最終的な勝利とソビエト連邦の国々の祝福にされました。

本日はその中から5曲をお届けします。

**1. 剣の舞** 初演直前にソ連文化省の役人からの「最終幕に士気高揚する踊りを追加せよ」との命令に8時間で完成させた曲です。

**2. アイシャの目覚めと踊り** アイシャはクルド人の娘で、オリジナルではガイーヌの兄アメルーンの恋人役でしたが、ガイーヌの兄役が恋人役にされたため、アメルーンの恋人役に書き換えられました。

**3. バラの娘たちの踊り** 狩に出かけるアルメンとゲオルギーのための祝宴で披露される踊りです。

**4. 子守歌** ガイーヌが子供たちを寝かしつける時に流れる物悲しいメロディです。

**5. レズギンカ** コーカサス地方の民族舞曲です。